

第 10 期 pES club シナリオ 5

平成 23 年 5 月 22 日
聖路加看護大学 看護学科
江藤 宏美
東京北社会保険病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

あなたは江美田子産科クリニックの助産師です。助産師になって 3 年、後輩もでき、仕事も任せられるようになってきました。昨年から立ち上がった助産師外来で、10 年先輩の巖来丹十留助産師と一緒に、週に 2 日、妊婦健診を担当することになりました。

ある日、助産師外来を訪れたのは、33 歳で初産婦の尾参蝶子さんでした。蝶子さんは妊娠 40 週 5 日で、予定日を 5 日過ぎたところです。

巖来助産師「蝶子さん、今日で 40 週 5 日になりましたね。赤ちゃんの動きはいかがですか？手足を動かしているのを感じますか？」

蝶子さん「そうですね、最近では少しおとなしくなってきた、ぼこぼこ動かないようになってきました。元気がなくなったのか、ちょっと心配です」

巖来助産師「お産が近くなると、赤ちゃんも骨盤の方に降りてきて、少し静かになる傾向があるんですよ。少しずつ、生まれてくるための準備を始めているかな。」

蝶子さん「そうなんですか。予定日を過ぎてしまって・・・実家の母親から、『まだ、何ともないの？』って電話がかかってくるんですよね。ちょっと焦ります」

巖来助産師「そうですね。赤ちゃんが生まれるのを楽しみになさっているんですね。初孫さんになるんですね？」

蝶子さん「私は自然派で、できれば何もせずに自然に陣痛が来るのを待ちたいと思っていますんですが・・・」

巖来助産師「うちのクリニックでは、41 週に入ったらすぐに陣痛が来るようにお薬を使うことになっているんです。子宮の出口の頸管を柔らかくして、陣痛を起こすようにします」

蝶子さん「陣痛は、普通だと 42 週までに来るんでしょう？42 週までお薬を使わずに待つんじゃないんですか？」

巖来助産師「41 週 6 日までが正期産の範囲内ですが、過期産に近くなると赤ちゃんに栄養を送っている胎盤の働きが落ちてくるので、赤ちゃんの状態も悪くなることがあるんですよ」

蝶子さん「えっ？それはちょっと怖いです」

巖来助産師「そうなんですよ。ですから当院では、ギリギリまで待たずに手前でお産が起こるようにお手伝いしているんです。まずは、赤ちゃんの健康状態をみるために、モニターをつけましょうね」

先輩助産師はそう言って、胎児心拍数モニタリングのプローブを蝶子さんのお腹につけて去って行きました。

先輩に聞いたところ、41 週を越えると周産期死亡を防ぐために陣痛誘発を行うとのことでした。あなたは、42 週まで待たずに陣痛誘発を行うことで本当に周産期死亡を防げるのか疑問に思い、調べてみることにしました。

第 10 期 pES club シナリオ 5 (追加シナリオ)

平成 23 年 5 月 22 日

聖路加看護大学 看護学科

江藤 宏美

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

蝶子さんの今回の妊娠は自然妊娠で、妊娠初期に超音波検査で週数を確定しました。妊娠中の経過は順調で、血圧は正常、浮腫、蛋白尿はなく、尿糖も陰性でした。貧血については、後期に Hb 10.2g/dl が最低値でした。赤ちゃんの状態も良好で、羊水量は AFI (Amniotic Fluid Index) 15cm、胎盤付着部位は子宮底部でした。

蝶子さんは身長が 160cm、妊娠前の体重は 50kg でしたが、妊娠中に 10kg 増加しました。妊娠前に婦人科を受診したことはありません。喘息などのアレルギーはなく、既往歴も特にありません。飲酒はもともとビール 1 杯/週程度でしたが、妊娠が分かってからやめました。喫煙歴はありません。仕事は事務職で、主にデスクワークです。現在服用している薬は特にありません。

当クリニックでは、時期によって、ラミナリア、ネオメトロ、プロスタグランジン E2、オキシトシンなどを用いて陣痛誘発を行っています。蝶子さんは陣痛誘発について、「薬を使って陣痛を起こすなどの人工的な介入をすること」だと思っています。陣痛誘発を行う上で不安に感じているのは、誘発にともなっておこる陣痛の痛みのようなのです。